

I

■出題のねらい

数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bの内容から、2次方程式の解、三角関数、平面図形と不等式、場合の数を選んで基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 概ねよくできていました。
- (2) 合成公式で間違えてしまい、空所「ウ」を $\frac{\pi}{4}$ とする誤答や、空所「エ」を $\frac{7\pi}{12}$ とする誤答が散見されました。
- (3) よくできていましたが、空所「カ」で $\frac{1}{\sqrt{6}}$ とする誤答が見受けられました。
- (4) 空所「キ」はよくできていました。空所「ク」ではさまざまな誤答が見受けられました。

II

■出題のねらい

平面ベクトルと平面図形に関する基本的な知識を問いました。

■採点講評

- (1) 正六角形であることを利用すれば正答を導くことができます。正答に辿りつけない解答が多くありました。
- (2) 空所「ケ」は図を書けば三平方の定理を利用して解くことができます。解答の中には、 $2\sqrt{13}$ などの誤答が多く見受けられました。

III

■出題のねらい

対数を含む関数の微分積分に関する知識と理解を問いました。

■採点講評

(1) で $f(x)$ の微分を間違えた解答が多く、全体的に正答率はよくありませんでした。

(1) $(\log 3)' = \frac{1}{3}$ とした誤答が多く見受けられました。

(2) (1) ができていた人のほとんどが正答していました。

(3) $n = 1$ から順に代入すればよいのですが、あまりできていませんでした。

(4) 解答している人が少なかったです。符号を逆に行っている解答が散見されました。
増減表など、すでに求めたものを利用してください。

IV

■出題のねらい

三角関数を題材にして、積分およびその応用に関する知識と計算力を問いました。

■採点講評

(1) 2倍角の公式を用いて式変形を行う問題ですが、変形時の間違いが目立ちました。
また、意味を取り違えて k を $\cos \alpha$ で表した人もいました。

(2) よくできていました。少数ですが符号間違いが見受けられました。

(3) 計算すべき定積分の記述はよくできていましたが、計算ミスが目立ちました。

(4) (1)～(3) ができた人は、 $k = \frac{1}{2e}$ まではできていましたが、解になっているかの
判定まで行えた人はほとんどいませんでした。

V

■出題のねらい

等比数列と数列の和について、基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

$\{a_n\}$ が等比数列であるので、 a_9/a_5 が公比の積で表せることから、容易に空所 (p の値) と空所 (a_1 の値) が求まります。そのため、空所 ~ はよくできていました。空所 は等比数列の和の公式を利用すれば得られますが、それほど正答率は高くありませんでした。また、空所 ~ も正答に辿りつけていた人は少なかったです。

VI

■出題のねらい

2 次関数の基本的な知識とその微分積分について問いました。

■採点講評

- (1), (2) よくできていました。
- (3) 2 つの曲線の式から y を消去した式は $(x - a)$ で割れるということをうまく利用できていない解答が多く見受けられました。うまく計算して容易に解ける方法を考えましょう。
- (4) よくできていました。(3) が解けていなくても、具体的に数値を入れると解きやすいです。

I

■出題のねらい

レールの上を運動する小球の問題を通じて、運動方程式や力学的エネルギー保存則に関する力学の基本事項を問いました。また、数式の意味や物理現象とのかかわりについての理解を問うために(1)、(2)では1条件で小球が円形部を回転する条件、(3)では複合条件において円運動する条件について問いました。

■採点講評

(1)は斜面を転がる小球について、水平部に到達したときの速さや、運動方程式、力学的エネルギー保存則に関する基本的な問題です。全体的によくできていました。(1)の後半では、小球が円形部を回転する条件について段階的に解いていく問題を出題しました。最高点で小球が落下しないための垂直抗力の条件(ウ)がわからないため、以降の正答が導き出せない人がいました。

(2)では、ばねによる力を用いて、小球が円運動する条件を問いました。2)の位置エネルギーに関する問題はよくできていました。(1)同様に円運動するため、ばねを縮める最小の長さを問う問題の正答率が低かったです。

(3)では、(1)の斜面を転がる状態と(2)のばねの弾性力が蓄えられる状態を組み合わせた複合条件で、小球が円運動するために必要な条件を問いました。ここでは、これまでの問題と同様に力学的エネルギーについて問う4)の正答率が高かったです。しかしながら、斜面の高さを固定した状態で小球が円運動するためのばねの条件を問う5)では、多くの誤答が見受けられました。今回の(1)～(3)で出題した小球が円運動をするための条件は、すべて最高点($\theta = \pi$)での垂直抗力が0以上になる、という条件から導き出すことができます。力学的エネルギー保存則の式は記述できるものの、物理現象と式とのつながりを正しく理解できていない人には、難しい問題であったようです。最後の小球が円運動するための条件をグラフで図示する6)は、最も正答率が低かったです。5)の正答から、 h は d の2次関数で表わされ、 h が h_1 よりも大きい場合、そして d が d_1 よりも大きい場合に小球に蓄えられる力学的エネルギーは大きくなります。その結果、小球が円運動を行います。このようなそれぞれの値の物理的意味を考えると、グラフ上で小球が回転する範囲を導き出せます。

日常の学習でも、数式を暗記し機械的に解くだけでなく、その物理的な意味や現象をよく考えたうえで、数式を理解するように心掛けてください。

Ⅱ

■出題のねらい

点電荷がつくる電場や電位、点電荷間にはたらくクーロン力（静電気力）を中心に出了しました。基本的な問題からはじめ、公式の暗記・適用だけではなくしっかりと考察できるかを問いました。また、電位などの物理的なイメージを持っているかを応用問題として出題しました。

■採点講評

1)～4)は、電磁気学の最初に出てくる基本的な内容です。正答率は高かったです。誤答としては2)で逆向きの⑤、4)で「ローレンツ力」としているものが多かったです。電場やクーロン力を向きも含めてしっかり理解しておきましょう。

5)は、電位に関する作図です。電荷が2個以上ある場合に電位のイメージが掴めていないようです。電気力線を書いたものや不可解な解答も少なからず見受けられました。重ね合わせの原理をしっかりと理解しておきましょう。

6)以降の問題は、電気双極子の周りに置いた輪を小さなリングがすべるという、一見複雑な設定ですが、基本的なものばかりです。6)は、5)の作図を実際に点 P_3 で計算します。電位の式は与えられているので重ね合わせをするだけです。7)は、力学的エネルギー保存則を用いて速さを求めます。力学の分野ですが、分野が混ざった問題でもしっかりと理解して解いてもらいたいものです。正答率は約20%でした。

8)では、問題文で「示せ」とあるにもかかわらず、言葉だけで説明している解答が多く見受けられました。この場合はしっかりと式で計算することが求められます。問題に対する基本的な考え方を間違えないようにしてください。9)は、電場中に置かれた電荷の位置エネルギーの概念を電位から読み取る問題です。位置エネルギーは、 P_1 から P_2 に向けて輪にそって減少していき、 P_3 で最小、それから P_4 へ増加していき、 P_5 で P_1 と同じ値になります。したがって、リングは $P_1 \rightarrow P_3 \rightarrow P_5 \rightarrow P_3 \rightarrow P_1$ を往復運動します。それがわかれば正答が得られます。残念ながら正答率は5%以下でした。

全体として基本的な問題ですが、予想していたよりも点数がよくありませんでした。電磁気学は、苦手な人も多いと思います。基本事項からしっかりと理解するように学習してください。

III

■出題のねらい

ドップラー効果を主題に、波に関する基本的な知識、物理的な考え方ができるかを問いました。全問正答の人が多く見受けられたので、比較的易しい問題だったと考えています。

■採点講評

問題毎に結果を見てみると、最初の3問は速さと振動数、波長の関係といった波の基本を問う問題なので、多くの人が正答していました。しかし、音源の移動に伴う波長の変化というドップラー効果の特徴を順を追って考える問題では、正答率がかなり下がり、約50%の人が間違えていました。気になったのは、ドップラー効果の式を導く問題は不正解にもかかわらず、最後のドップラー効果により変化した振動数 f' を求める問題は正答というものがかなり見受けられたことです。このような解答をした人は、公式は暗記しているが、なぜそのような式となるかを十分理解できていないのではないかと気になりました。斜め方向のドップラー効果の問題の正答率はさらに下がりましたが、ここでも途中の解答は不正答ながら、最後の問題は正答というものが見受けられました。暗記ではなく、順を追って考える力を身に付けるように学習してください。

数値計算の問題では、ここまでの斜め方向のドップラー効果の問題で正しく解答した人は概ね正答に到達していました。ただ、 $\cos \theta$ の数値の求め方でつまずく人が見受けられました。誤答の中には、変化した振動数 f の式や数値計算が正しいにもかかわらず、定性的なグラフすら書くことができていない解答がありました。このことは、波動や物体の式を実際の運動と結びつけて考えることができていないことを示しています。学んだ物理の知識は、必ず実際の物体の運動や波動現象に結びつきます。問題を解いたとき、その解答がどのような運動や現象に対応しているか、少し立ち止まって考えるだけでも物理の理解は深まります。是非、式から現実の物理現象を想像して欲しいです。

I

■出題のねらい

反応速度と化学平衡に関する基本的な知識と計算能力を問いました。

■採点講評

受験者が必ず理解しておくべき反応速度と化学平衡に関する基本知識を問う問題です。反応速度と化学平衡に関する問題は、過去にもよく出題されており、理解しておくべき項目です。受験勉強において多くの演習問題に取り組むことで、理解を深め、確実に計算能力を身に付けることが望めます。(1)について、「活性化エネルギーが大きいほど、反応速度が大きくなる」と解答しているものが多く、正答率が低かったです。全問正答できなかった受験者は、反応速度の勉強を基本から復習する必要があります。反応速度は化学の基本であり、しっかり理解していないと大学の化学についていくことが困難になります。(2)については、正答率は高かったものの、全問正答の解答は多くはありませんでした。これは、反応式の係数について理解が不十分であり、3)を「0.9mol」と誤答していたためです。また、有効数字2桁で解答できていないものが目立ちました。有効数字の理解が望めます。(3)、(4)について、分母、分子にくる濃度が逆になっている、指数となるべき数字が係数になっているなど、正答率は高くはありませんでした。化学平衡についての基本知識の習得が望めます。(5)、(6)の正答率は低かったです。(7)、(8)は、ルシャトリエの原理についての基本的な問題です。正答率が高いとはいえず、今後、化学の道を歩むことを希望している受験者は、全問正答することが望めます。

問題を落ち着いて読み、採点者が解読可能な文字を丁寧に書いて解答することが望めます。番号で解答することを求められている問題に対し語句で解答しているものが目立ちました。

Ⅱ

■出題のねらい

硝酸の工業的な製造方法を題材に化学の基本となる化学反応式、化学量論の計算あるいは気体の性質に関する知識を問いました。

■採点講評

受験者の得点差が大きく表れた問題でした。

- (1) 無機化合物の工業的な製造方法、〔例えば、オストワルト法（硝酸の製造）とそれ以外の接触法（硫酸の製造）、ハーバー・ボッシュ法（アンモニアの製造）あるいはアンモニアソーダ法（炭酸ナトリウムの製造）〕を区別して各反応を理解するようにしてください。
- (3) 化学反応式で係数を解答する問題はよくできていました。さらに、文章で書いてある化学反応を化学反応式で書けるようにもしておいてください。
- (5) いくつかの関連する化学反応式を一つの化学反応式にまとめられるようにしておいてください。
- (6) 化学反応式を使って、原料のアンモニアから製造される硝酸の量を計算する問題は正答率が低かったです。化学量論の計算がしっかりできるように勉強しておいてください。
- (8) 教科書にある代表的な気体の実験室での発生方法や性質について理解しておいてください。

III

■出題のねらい

含酸素有機化合物の基本的な反応と物性を理解するとともに、その名称と構造式を正確に書くことができるかを問いました。

■採点講評

(1)、(2)は炭素、水素、酸素のみから成る特定の有機化合物の完全燃焼を行い、得られた二酸化炭素と水の量から計算により実験式を求め、さらに分子量を手掛かりとしてその分子式を導く問題です。有機化学分野では、最も基本的な計算問題であり、入試で比較的良好に出題されますので確実に得点できるように準備しておくといでしょう。(3)は酸性条件下でのエステルの加水分解反応を取り上げており、比較的良好にできていました。この反応での生成物は酢酸とエタノールですが、更に酢酸とエタノールをそれぞれ原料とする別の反応を行い、得られた生成物の物性をヒントにして、関連する有機化合物を特定することを求めています。(4)はここで取り扱ったいくつかの有機化合物の名称と構造式を解答する問題です。この問題で得点の差がつかしました。有機化合物の名称、構造式、性質を個別に覚えるのではなく、さまざまな知識を相互に関連させて理解しておくことが大切です。構造式の誤答の中には、元素の数はあっているものの炭素の結合数が4でない解答がありました。また、名称を記載する問題では漢字の間違いもありました。専門用語は正しい漢字で覚えるようにしてください。(5)はエタノールにナトリウムを加えたときの反応式を答える問題です。化学量論には特に注意してください。

いずれも有機化学の基本知識があれば解ける問題です。全般的によくできていました。

生物の入試問題は教科書の内容を基本としており、教科書をしっかり勉強することが最大の入試対策です。教科書の図版の内容や「探究」といった項目も出題の対象になりますので、注意して勉強してください。

A 日程 2 日目では「体内環境」、「植物の配偶子形成」、「ヒトの配偶子形成」、「社会性昆虫の血縁度」をテーマに出題しました。

I

■出題のねらい

体内環境に関する問題を幅広く出題しました。顕微鏡観察に関する実験手技、ヒトの呼吸、血液、肝臓・腎臓・すい臓の機能、浸透圧調節、免疫、内分泌系など新課程の「生物基礎」の範囲で、旧課程でも取り上げられている内容が中心です。実験手技に関する問題は、ほぼ毎年出題されます。どの教科書にも「顕微鏡の扱い方」、「ミクロメーターの使い方」など実験機器の取り扱いに関する解説、実験の手順や注意点、得られるデータとその読み方などがあるはずです。細かいところにも目を配り、自分が実験しているつもりになり、勉強しましょう。

■採点講評

正答率は約50%でした。(1) 2) 顕微鏡による血球観察の問題は、実際に行った経験があれば難しくありません。正答率は約20%でした。顕微鏡観察は、生物実験で最も基本的なもので、学校で実験する機会があれば、正確に手順を覚えましょう。実験する機会がない場合でも、教科書や参考書、インターネットなどに出ている情報を基に、手順を正確に理解してください。7) 塩類濃度調節に関する問題も低い正答率でした。この問題は「淡水産であれば、周りは塩類が少ないから体から塩類が出やすいだろう」といった推理をすることで、解きやすくなります。単に暗記するのではなく、文章など与えられた情報を慎重に分析する習慣をつけましょう。8) ベイリスとスターリングのセクレチンに関する実験は、「ホルモン」という概念が生まれるきっかけになった、歴史上重要なものです。特に、「すい液分泌は神経に依存する」というそれまでの概念を否定し、血液中の物質が分泌を促進するということを見出した点がポイントです。今回は、教科書の記載内容をほぼそのまま出題しましたが、形を変えた出題にも対応できるよう、教科書の文章の字面だけでなく、実験の意義や意図を考えながら勉強しましょう。

9) は、血糖調節についてです。内容的には教科書レベルですが、問い方を教科書と変えたせいか、正答率が低く、選択肢④を選んだ人が多かったです。教科書にもある通り、糖尿病は血中のグルコース濃度が上がるのが病態の中心で、それが尿中の糖の増加を起こします。もし、細尿管からの糖の排出が糖尿病を起こすなら、血中の糖濃度は減少するはずです。

Ⅱ

■出題のねらい

(1) では、植物の受精のプロセスの中で複雑なメカニズムを示す重複受精について出題しました。細胞数や細胞核数の変化を通じて理解度を確認しています。(2) では、ヒトの生殖、特に配偶子形成について出題しました。この過程が遺伝的多様性を確保する一つの手段であることを問う内容になっています。(3) は、社会性昆虫の持つ特殊な血縁度の関係についてです。計算を通じて理解を促す問題になっています。

■採点講評

正答率は約60%でした。(1) 植物の配偶子形成は複雑なプロセスであるため、注意深く勉強する必要があります。今回の問題では[29]、[30]の胚珠中の細胞数と細胞核数の変化に関する問題の正答率が低かったです。この項目は、教科書の関連する図を注意深く見ていないと正答できません。生物では、教科書の本文だけでなく、図を読み取り、理解しておくことも必要となりますので、気をつけましょう。

(2) は、ヒトの配偶子形成に関する問題です。前半の穴埋めの部分の正答率は高めでした。ただ、極体と卵母細胞を混同した解答がいくつか見受けられました。この分野は色々な用語が出てきて混乱しやすいところです。一つひとつ丁寧に勉強しましょう。また、全体の流れを図に書けるようにし、知識を整理しておきましょう。2)、3) 減数分裂に関する計算問題は、正答率が約20%でした。減数分裂では相同染色体が対合しますので、 $n=46$ のヒトでは(女性であれば)23対しかできません。そこを見落とした解答が多く見受けられました。また、3) では「常染色体」と限定しているので、22対の相同染色体について乗り換えを考えることになります。そこを見落とした解答が多かったです。

(3) は、血縁度に関する問題で、問題文中の説明を慎重に読み、それに従って計算すれば解答が得られます。1) の正答率は高かったです。子に父と母と双方から遺伝子が伝わっている場合の血縁度の計算では、父経由で遺伝子が伝わる確率と母経由で遺伝子が伝わる確率を合計する必要があります。そこを見落としたと考えられる解答が多く見受けられました。

I

■出題のねらい

お花見パーティの詳細を決める友人どうしの何気ない会話です。二人の会話から、実施時期や実施時期変更の理由、用意するものなどの細かい取り決めの内容が理解できるかがポイントとなります。まず二人がどのような関係なのかを判断し、去年のお花見パーティと今年のパーティとの変更点、それぞれが何をを用意することになったのか情報を整理しながら読むと理解しやすいでしょう。

■採点講評

空所補充問題の[1]、[2]は共に正答率が低かったです。[1]は文章半ばにあります。その返答の“Great!”につながるものはどれか選択肢の中から最適なものを選びます。Toddがお花見に行くことにしたということが状況からわかるはずですので、その後、待ち合わせ場所を決めているという流れが把握できれば正答できるでしょう。[2]の関係詞を選ぶ問題ですが、ここは関係代名詞が入ります。先行詞“any plastic sheets”が前にありますので“that”が正答です。

II

■出題のねらい

企業の採用担当者から、求人の応募者に対して出されたEメールです。Eメールの書かれた目的や、採用担当者からの提案、採用後はどのような勤務の仕方となるのかといったような内容が、担当者と応募者の立場を理解しながら読めるかどうかが問われます。単に英語の知識だけでなく、実社会における状況判断ができるかどうかにも正答を導くには必要です。

■採点講評

企業の面接後の応募者への結果通知という皆さんにはあまり馴染みのない内容だったこともあり、全体的に正答率が低かったです。手紙の用件は第一段落に書かれていますので、[6]の問題は第一段落から判断できます。結局他の人を採用することになったけれど、企業側が別の職を応募者に提案しているということは流れからわかると思います。[8]、[10]の内容把握問題は、より注意深く本文を読んで解答する必要があります。早合点せずにじっくり情報を読むように心掛けましょう。

III

■出題のねらい

家電製品やスマートフォン・自動車など、耐久消費財の世帯ごとの普及率を調査している内閣府のデータを紹介した英文です。英語の基本的読解や文系に必須の数値・グラフ情報の的確な把握だけでなく、消費税の増税というごく一般的な社会的背景を踏まえた類推力など、複合的な理解力が問われます。

■採点講評

[11]は少し熟慮が必要な問題でした。日本の世帯が、一世帯につき幾つスマートフォンを所有しているか、台数を答える問題です。2014年3月末時点では、日本の世帯の54.7%が各1台スマートフォンを所持しています。100世帯あたりのスマートフォンの数は101.5台ですので、1世帯あたり約2台というのが正答です。[12]～[14]の正答率は50%台でした。特に日本語の選択肢をよく読み込まなければならない[15]の問題に苦戦した人が多かったです。

IV

■出題のねらい

子どもたちの異文化に対する共感力を育てることを目的としてウェブサイトを開設したNPOについて取り上げた英字新聞記事からの抜粋です。段落ごとに何について述べているのかタイトルを付けるつもりで読んでいくと、話の流れが掴みやすいです。本文の段落順に、「NPOの設立趣旨」、「NPOのネットワーク」、「NPOの具体的活動」、「活動の1つであるゲームについて」、「ゲーム参加者の感想例」、「NPOの今後の活動」、「東京オリンピックに向けてのNPOの抱負」というような話の流れとなっています。長文では、こうした全体の流れを把握しながら、細部の情報を具体的に理解していくことが重要です。

■採点講評

この問題では英問英答の[21]、[22]、同意語を選ぶ[25]、空所補充[17]、[26]の問題の正答率があまりよくなかったです。特に正答率が30%と低かったのは前置詞の空所補充問題の[17]です。“across the globe”「全世界の、世界中の」という意味になります。語彙力、熟語力を高め、長文に耐えられる読解力を普段から養うようにしましょう。

V

■出題のねらい

自己啓発本によくある目標の達成の仕方について述べられています。どのような提案がなされているか、なぜそれが提案されているかを頭に入れながら読むといいでしょう。命令文や基本構文の知識を問うています。

■採点講評

目標達成のためのアドバイスでしたが、3つのアドバイスのところが並び替え問題になっていました。本文の内容はそれほど難しくはなかったと思いますが、紛らわしい選択肢で混乱した人も多かったかもしれません。特に「28」の正答率は低かったです。「ブログか友人へのEメールに書くか」という意味になりますが、“or”を不要な語として選んだ人が多かったです。

該当部分の正しい語の並び方は、次のようになります。

- 1) ③to start ②your training ⑤by ④running
- 2) ③a blog ⑤or ④in emails ①to
- 3) ③rewards ④will ②help ①you

講評

I

出典『子どもが忌避される時代—なぜ子どもは生まれにくくなったのか』（本田和子）
新曜社

読みにくさのある文章ですが、内容は難しくありません。

問1【漢字問題】（解答番号は①・②）

- b ⑤模倣芸術 が正答です。正答率は85%。
e ②巧言令色 が正答です。正答率は23%。

問2【漢字問題】（解答番号は③～⑫）

正答と正答率を示します。

- a 注視（67%） c 速断（37%） d 辛抱（79%） f 連綿（25%） g 遭遇（77%）

問3【接続詞の空欄補充】（解答番号は⑬～⑮）

空欄の前後の内容を把握し、文脈上適切な語を選ぶことが肝要です。正答率は56%でした。

問5【指示語の内容を考える問題】（解答番号は⑰）

2行前の「わが国の家族写真に目を向ければ」を受けています。正答率は48%でした。

問6【慣用句の意味と内容理解に関する問題】（解答番号は⑱）

傍線部Cの主語が「子どもの中心化は」であることを押さえると、①か②に絞られますが、「怪我の功名」の意味を合わせると正答は②です。①は「物事の本質がわかること」が間違いです。正答率は29%でした。

問7【指示内容を読み取る問題】（解答番号は⑲）

所以（ゆえん）は理由の意です。この段落全体を読めば、写真技術が家族観の変貌に寄与したと筆者が考える理由が把握できます。④は「見る視線」が曖昧で不適切です。正答率は67%でした。

問8【空欄補充】（解答番号は⑳）

「中心」の対義的表現が入ります。正答率は50%でした。

問9【内容理解に関する問題】（解答番号は㉑・㉒）

正答は③・⑥です。他の選択肢は主として次の部分が間違いです。①「公的記録の用途のために」、②「肖像画に比べて写真は、簡単に短時間で作成できることから」、④「明治から現代にいたるまで」、⑤「日本社会の建前を表すものとして」、⑦「これは他の技術の場合以上に」、⑧「本来の両義性」。正答率は21%でした。

Ⅱ

出典 『日本語と外国語』（鈴木孝夫）岩波新書

問題文は長くて丁寧に読まないで理解しにくい箇所がいくつかあります。しかし、日本語がテレビ型の言語であることを常に頭において読み進めれば、全体の流れは掴みやすくなるでしょう。説明が必要と思われる設問のみ以下で解説します。

問1【漢字問題】（解答番号は23～32）

正答と正答率を示します。

a 競合(54%) b 転位(6%) c 即座(85%) d 微妙(100%) e 逸脱(92%)

問5【空欄補充】（解答番号は37）

「機能論的な」という言葉は見慣れないかもしれませんが、空欄「丁」のすぐ前にある、日本語で「どうすれば無駄なく合理的に漢字を使えるのか」という観点を言い換えているのですから、漢字の働き、機能に着目する「機能論的な」が正答です。正答率69%でした。

問6【説明】（解答番号は38）

傍線部Aの前に「音声の面と意味構造の面で二重の制約をもつ」とあります。選択肢の③以外は、音声の面での特徴からどのような弱点があるかを述べており、意味構造そのものには触れていません。正答率は15%でした。

問7【関連説明】（解答番号は39）

日本語がテレビ型言語であることを高級語彙について例示している説明を選びます。「蜂食性」を例にとって、漢字で表記すると意味がわかりやすくなるという選択肢が適しています。正答率は35%でした。

問8【内容合致】（解答番号は40）

本文の主張と合致していないものを選ぶ問題です。最後の段落から、日本語にとっての漢字の必要性を強調していることは読み取れますが、更に増やしていく方がよいとまでは主張していませんので、④が正答です。正答率は23%でした。

問9【小見出し補充】（解答番号は41・42）

小見出しの空欄「乙」については、次の小見出し「同音衝突の原理」の最初に「このように考えれば、日本語の第二の特徴」、つまり意味が同じような文脈に同音語が多いということも無理なく理解できる、とありますから、前もって空欄「乙」の個所で日本語がテレビ型言語であることを結論づけていると考えます。正答率は10%でした。